

平成19年度第4回中原区区民会議

平成19年度第4回中原区区民会議が開催されました。

会議では「第1期中原区区民会議を振り返って」をテーマに、ビデオ報告の後、テーマごとの取組み報告及び意見交換、第2期区民会議に向けて議論しました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成20年3月14日（金）午後2時01分から午後4時29分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 名

会議次第

- ・開会
- ・会議録確認委員の選任
- ・議題「第1期中原区区民会議を振り返って」
 - ～第1期取組み報告と中原区区民会議のこれから～
 - ビデオ報告〈総集編〉
 - テーマごとの取組み報告及び意見交換
 - 第2期区民会議に向けて
- ・その他 今後の予定
- ・閉会

議題検討における活動事例報告と主な委員意見

- ・平成18年までは大戸地区すこやか活動推進委員会と丸子地区すこやか活動委員会の2つが活動していたが、この区民会議がきっかけとなって19年度から、玉川すこやか活動地域推進委員会とつきやまサロンすこやか活動推進委員会の2地区で新たに活動が開始され、現在4地区で活動が行われている。
- ・玉川すこやか活動地域推進委員会は、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の見守りネットワークとして、地域を20区域に分けて地域連絡員が対象世帯を訪問して話し相手となりながら、必要に応じて地域包括支援センター等と連携して対応する仕組みと、総勢98名の老人会活動としてミニデイサービスを展開しており、高齢者の外出や地域の人たちとの触れ合いのきっかけづくりとなっている。
- ・西丸子小学校地区のつきやまサロンすこやか活動推進委員会は、閉園された幼稚園の教室を有効活用して開始して7年目を迎えているが、19年度に改めてすこやか活

動に申請して認められた。活動内容は、健康講話、太極拳、映画観賞、体操で、特に手づくり昼食会は、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦の外出のきっかけづくりとなっている。企画を支える講師は、メンバーが得意分野を生かしながら務めており、この辺がつきやまサロンの合い言葉である相互ボランティアで高齢ロマンという、互いが活躍することで豊かな老後を築き、生涯現役でいこうという心意気がうかがえる。子どもが育ちやすい環境づくりを1つのモットーに世代間交流も積極的に行い、高齢者と同時に、子育てサロンと両輪でこれからも頑張っていきたい。

- ・子育てサロン「とどろき」は、とどろき老人いきいの家において、高齢者と若い親と子の心の触れ合いをテーマに、交流を通して地域での人間関係づくりをしている。高齢者に昔遊びとかわらべ歌、子育ての伝承、生活の知恵を教えてもらい、高齢者もボランティアスタッフとして地域で一緒にかかわることもできる。こういう交流を他の地域でももっと広げていきたい。
- ・民協で活動しているが、民協としては守秘義務や個人情報との関係で踏み出せない部分があるので、老人会や町会といろいろなところで接点を持って、要援護者等の情報を共有していきたい。
- ・木月4丁目共和会の防犯の取り組みは、昨年9月26日から、町会の持っている自動車に青色回転灯をつけて防犯パトロールを始めた。従来の歩きでは週1回が、車で回るので週3回パトロールすることができるようになった。青色回転灯は非常に目立って、町内会の活動が広く知れ渡るようになった。
- ・小杉2丁目町会の青色防犯灯の設置については、昨年6月に準備期間として3灯つけ、10月1日から本格実施し、82灯全部を青色防犯灯にした。見通しのよいこと、心が鎮静すること、青色防犯灯をつけたことによって防犯の意識が高い町会と見せるための3つの方針を立てたが、子どもが家に帰って母親と防犯灯の話をするによって町会のあり方がだんだんわかってきたことと、人間のきずながよくなってきたという副次的な効果があった。
- ・中原区商店街と連携した地域のまちづくり懇談会を昨年12月から3月までで3回会合を持ち、試行錯誤した中で多少形が見えてきた。オズ通りでやっている小学生のマナーアップのポスターの展示を、小杉地区では4月6日の桜まつりのとき、新城では6月の中元大売り出しのときに飾る計画をしている。また、小杉のサライ通りの粥菜坊で健康にいいおかゆを実現させることになっている。商店街が中心になって地域を取り込んで、楽しい行事を行っていきたい。また、以前から桜まつりを行っており、ことしは4月13日に新城小学校を借りて、小学生に将棋のプロ棋士と楽しんでもらいたい。
- ・商店街の会費を引き落としでやるのはうまい方法だと思う。
- ・区民交流サイトと区民交流センターの報告。区役所とまちづくり推進委員会では、

地域活動に参加してもらうための情報づくりを検討してきた。区民交流サイトは、地域の情報や市民活動の情報を発信したり、交流の情報を掲載している。3月10日月曜日にオープンして14日金曜日の5日間で1,500アクセスあった。区民交流センターは、3月10日に従来の市民活動支援コーナーをリニューアルしてオープンした。支援ではなく、市民と市民が出会って交流していこうということで交流センターという名前をつけた。印刷室を別の部屋に設けたり、会議室をパーティションで区切って設けたり、自由に打ち合わせができるテーブル、いすを用意し、どなたでも参加しやすいような雰囲気づくりを行っている。

- ・かわさき市政だより中原区版の本年1月1日号に、小杉町2丁目町内会の活動を紹介してもらった。地域の安全・安心、防災・防犯、自転車交通事故などのいろいろな問題を取り上げて、子どもの学校の通学時の見守り活動取材してもらった。
- ・盆踊りの「川崎おどり」をダンス用に編曲した「E-JUNC DANCE」が各区の小学校ではやってきたので、町会でもインストラクターを呼んで、地元の小学校、中学校の運動会、盆踊り大会で発表している。大人の人がやると、全身運動で足腰がおかしくなるくらい激しい音楽であるが、だんだん盛んになってくれればいいと思っている。
- ・地域保健福祉課で中原地域福祉推進委員会を立ち上げて、丸子ではすこやか運動、昨年2月に小杉では福祉の心ということでフォーラムを開いた。地縁型の町会とか民協、社協がしっかりネットワークを組んで、ボランティアをふやして活性化を図っていききたい。また、6～7人ぐらいで6つのワーキンググループをつくり、現在の町会、将来の町会がどうなったらいいのかをつくって、去年の10月1日から2週間、中原区役所1階ロビーの資料室に展示した。この3月には「エポックなかはら」の総合福祉センターと、中部身体障害者福祉会館を見学して研修を受ける予定である。
- ・工場協会は250社に近い物づくりを中心としたメンバーで、環境ISOに対する省エネや分別等の勉強をしている。その中で組織的に、古切手の収集、ペットボトルのふたを収集しているが、今後も会員企業に啓発していきたい。
- ・ペットボトルキャップ収集は、いろいろな反響を呼んでいて、区役所にも回収箱を置いたところ、12月から現在までで300キログラム集まり、単純に計算すると300人分のポリオワクチンに取りかえることができる。マスコミにも多く紹介され、神奈川新聞、読売新聞、タウンニュース、CATVのイッツコムにも取り上げられ、区役所にも多数の問い合わせがある。また、多摩区、川崎区や横浜、逗子、茅ヶ崎、綾瀬、東京都内、熱海、下田、我孫子など関東一円から問い合わせがあり、活動が広がっている。個人だけではなく、区の医師会、町内会、子ども会、マンション、小学校、大学、企業等々でも活動が始まっており、宅急便で送ってくる方もいる。

- ・ペットボトルのキャップ収集は、多摩川にいるホームレスの人もペットボトルのふたを外して家に持ってきてくれるなど、キャップを外すことで、ごみを捨てるマナーがよくなった。
- ・新城商店街でガラス瓶のリユースシステムを始め、2月8日、9日に新城駅のアルカードというストア横と改札前で、日本酒と焼酎の試飲会を行った。4月にはサイダーの瓶にも取り入れられて発売になる。リユースの瓶は、普通のものより丈夫にできていて50回ぐらい洗って使えるので、CO₂削減につながる。瓶を持ってきてくれるかどうかが問題で、テレビで雑学のクイズとかをやっているの、R瓶を取り上げてもらおうと知ってもらえると思う。実際に聞いてみると、知っていた人はほとんどいなかった。R瓶は多分ガラス瓶と一緒に回収なので、PRの意味でも、何曜日にはR瓶を回収するなどを市のほうでもしてくれれば、もう少し活動も広まるという気がした。
- ・3月9日日曜日にたまがわっこシンポジウムを開催した。多摩川クリーン大作戦は、スタッフも入れて100名以上の参加でかなりの量のごみを拾い、子どもだけではなく、大人の意識も高まった。9月には、フロンターレの選手会とFC東京の選手会とそれぞれのサポーターでクリーン作戦をやろうということで、フロンターレから申し入れが来ている。河川敷をきれいにしていくという意識に一石を投じたと思っているので、大変効果があった。午後のシンポジウムも、75歳以上の方に昔の話を聞いたり、子どもたちに将来の夢を聞いたが、大人よりも子どものほうが多摩川や中原区、川崎市のまちづくりに対してきちんと考えていて、私たち大人が大変学ばせてもらったので、子どもたちが少しずつ環境を考えていってくれればいいと思っている。
- ・市民共同発電所は、中原区木月にある国際交流センターに太陽光発電をつけようということで、東京電力の助成金と、市民の募金を12月9日から始めている。市民からは125万円を目標にしていたが、2月末に達成して、3月末だったので目標設定を150万円に変えたが、3月14日時点で163万7000円とクリアしている。来年4月から詳細設計を始め、8月をめどに設置して、点灯式を行いたい。募金のお願いは難しいと思っていたが、具体的な行動を言うてお願いしていけば、環境への関心も高まっている中で、皆さんにかなり協力していただけた。
- ・中原区役所では、1階ロビーにエコギャラリーということで、小学校の環境学習の成果の模造紙を張ったり、来年度の緑のカーテン普及に向けてゴーヤの絵本をつくっている。
- ・私が活動している中でも、子どもたちの意識づけを小さいうちからやっておいたほうがいいということで、子どもたちができるエコ活動としてペットボトルキャップを集めている。また、子ども同士のおもちゃ交換や衣類やバッグのリサイクル活動

をしたり、中学校で不要になったピアノとかレコーダー、フロンターレの中古のサッカーボールを海外に持っていく活動も続けている。私が入っているロータリークラブでは、不用品を区別して海外に持っていつている。

〈第2期区民会議に向けて〉

- ・高齢者の子どもの支援が非常に大事だと思っているので、今までの取り組みをもっと幅広く展開して、子どもの健全育成につながればいいと思っている。
- ・福祉のまちづくりが必要だと思っているが、一人一人が参加していかないとだめである。地区社協がもっと分解して、町会単位以下になっていかないと福祉は徹底しないので、ふれあい活動を本当に力を入れてやっていかなければいけない。
- ・ペットボトルのふたの回収は、資源回収の日に、ビニール袋に入れるなどしてまとめて出すようにしたらいいのではないか。
- ・エコ問題については、9月22日のなかはら子ども未来フェスタでは、乳幼児を持っているお母さんたちで古着交換会を行っている。第1期目の2年間で大変いい話題が出ていたので、高齢者に関すること、安全・安心について、商店街について、地域に学び、地域に参加すること、環境問題については、今後も継続してやっていかなければならない内容だと思う。また、小杉周辺のマンション群を視野に入れて活動していかなければならないと思う。
- ・第1期の2年間を振り返ると、最初の1年は、この区民会議はどういう権限があってどういうことができるかが、公募で入っていたので、自分の役割に期待と不安まじりだったので、第2期はその辺をもう少し明確にしたほうがいいのではないか。この会議に役所側から何が期待されているか、どういう権限があって何ができるか。自分が今まで歩んできた道で得た経験をもとにいろいろ提案はできるが、市長に報告を提出するのではなくて、みんなでやるという目的なので、みんなでやるというのは、団体から推薦された委員のように、団体に持ち帰って団体で実施するということができない。個人会員と団体推薦の委員のできることやバランスを、もう少しはっきりしたほうがもっと発揮できると思う。